22　シュークリーム

マイケルは博士の研究所に行ったが、研究所には①もぬけの殻(から)だった。

研究所に行く途中のケーキ屋で、マイケルはおみやげにシュークリームを買っていた。博士はシュークリームに②（　　）がない。

しばらく研究所で待っていると、博士がもどってきた。

博士は嬉しそうに両手に袋をさげている。袋の中には大量のシュークリームがつめられていた。

研究所でマイケルと博士の買ったシュークリームを数えると、その数は合わせて五十八個だった。テーブルの上に、山のように積まれたシュークリームを見て、博士とマイケルはしばし言葉を失っていた。

だが、マイケルが③何かひらめいたのか、輝く笑顔を見せて博士の肩をつかんだ。

「そうだ、冷凍しましょう！」

「なるほど、その手があったか。君は天才だな。」

博士もマイケルの肩をつかみ、一緒に笑い合った。

問１　――線①「もぬけの殻（から）だった」とはどういう意味ですか。

ア　セミの殻があった　　イ　もぬぬけが殻（から）に入っている

ウ　だれもいなかった　　エ　だれかがいた

（　　）

問２　――線②「（　　）がない」の（　　）には、漢字一文字を入れて、「われを忘れるほど好きである」という意味になります。その漢字を答えましょう。

（　　）

問３　――線③「何かひらめいた」とありますが、マイケルがひらめいたのはどんなことでしょう。次の（　　）にあてはまる言葉を書きましょう。

（　　）を（　　）すること。

23　三太と昆虫

三太は昆虫が大好きです。ひまさえあれば、昆虫の図鑑を見ています。

そんな昆虫好きの三太に、お父さんが話しかけました。

「おい三太。お前の大好きな昆虫は、実は宇宙からきたらしいぞ。」

リビングのソファーで、スマホをいじりながら、お父さんは三太に自慢げに語り始めました。

「①ミッシングリンクというのがあってだな。まだ発見されていない進化の空白が昆虫にはある。約四億年前の地層（ちそう）から最古の昆虫であるトビムシの化石が断片的（だんぺんてき）に発見されている。しかし、その後何千万年にもわたって昆虫の化石が発見されていない。そして、三億二千五百万年前から、突然多くの種類の昆虫が発見されるようになった。最古の昆虫から、空白の数年万年、そして突然の大量発生。この大量発生を説明するには、昆虫が宇宙からやってきたと考えるしかない。どうだ、すごいだろう。」

三太は何も言わずにお父さんをじっと見つめています。

「どうした三太？あまりにびっくりして、何も言えなくなったか。」

「ちがうよお父さん。」

「えっ？」

三太が②お父さんの説明を真っ向（まっこう）から否定しました。

「昆虫の祖先が[1]甲殻類であることは[2]ゲノム解析で解明されているし、すべての昆虫がトビムシから進化したものでないことも分かっているんだよ。」

「あ、そうなんだ……でもほら、ミッシングリンクが……」

とお父さんが食い下がります。

「ああ、それはね空白期間とされる地層の多くは、現在は海底に沈んでいるから化石が発見されないだけで、別にその時代に昆虫がいなかったということではないんだ。だから、昆虫が宇宙から来たという説はぼくは違うと思うけど。」

「はぁ、そうか……」

お父さんはすっかりしょげてしまいました。

1 甲殻類＝エビやカニの仲間。

2 ゲノム解析＝生き物の遺伝情報を詳しく調べること。

問１　――線①「ミッシングリンク」と同じ意味の言葉を文中から十五文字で書き抜きましょう。

問２　――線②「お父さんの説明を真っ向から否定しました。」とありますが、三太が否定したのは、どんなことですか。

ア　昆虫が宇宙から来たという説。

イ　昆虫が宇宙から来たのではないという説。

ウ　お父さんは宇宙人であるという説。

エ　昆虫は宇宙人がばらまいたものだという説。

（　　）

問３　「空白期間」において昆虫の化石が発見されないのはなぜですか。二十字以内で答えましょう。

２４　白髪のおじいさん　その３

おじいさんの話は続きます。

「まあ、きっかけは、三日前でさ。たまには砂浜でも散歩すんべって、この辺歩いてたわけ。エモいタ日とかパシャッたらバエるかなと思って。」

もう、小品川くんには、おじいさんが何を言ってるか分かりませんでしたが、とりあえずおじいさんの口調に合わせてうなずくことにしました。

話はさらに続きます。

「したら、なんかマジマンジなヤツらが、ひょろい兄ちゃんをボコってるんよ。おれってほら、イジメとか超許せない派閥（はばつ）なわけで、秒でガンダかましてイキッてるマンジどもを蹴散（けち）らして、ボコられてる兄ちゃんを助けてやったわけ。ここまでおけ？」

「（　ー　）。不良たちになぐられてたお兄さんを助けてあげたということですか。でも、相手は……」

「それな。まあ、相手は三人だったんだけど。おれも若い頃はちょっとやんちゃしたっつうか、弱い兄ちゃんイジメるようなやつらに負ける気しなかったんで、相手はすぐ逃げたよね。とりま、その兄ちゃんに『大丈夫っすか』とか声かけたら、すごいお礼言われて、その上お礼に兄ちゃん家でメシ出してくれるっつーから、『ああ、まあ腹減ってたしいいか』と思って『ゴチになります』って返事したわけ。ここまでおけ？」

「（　ー　）、助けたお礼に、そのお兄さんの家で食事をごちそうになることになったのですね。」
おじいさんは、小品川くんの答えに大きくうなずきました。
このあたりで、小品川くんの頭には、ある昔話がよぎっていました。

問１　（　ー　）には、同じ接続表現が入ります。ア～エから選びましょう。

ア　だから　　イ　つまり　　ウ　チャラ語　　エ　そして

問２　おじいさんの言葉づかいはチャラすぎてよく分かりません。そこで、小品川くんの言葉をもとに、この話を簡単にまとめてみました。
（　　）に入る言葉を書きましょう。

おじいさんが、不良たちになぐられてたお兄さんを助けてあげたところ、助けたお礼にと、そのお兄さんの家での食事に（　　）された。

（ヒント）　正体　招待　小隊　ショータイム

25　白髪のおじいさん　その4

「んで。その後が激アツっしょ。兄ちゃんが背中に乗れっつうのな。いやいや乗れないっしょってがんなえだったけど、兄ちゃんはどんどん海に入っていくし。『ちょ、おま……』とか言いながら、兄ちゃん追いかけたら、いつの間にか兄ちゃんの背中に乗ってるわけ。もうやばたんすぎて草生えまくりで。海の中とか普通に無理ゲーと思ったら、なんか息ができるし、まじで神ってると思ったら、兄ちゃんがいつの間にか亀なの。ってか、こんな話なしよりのなしだよね。自分で話てても『ネタおつ』って思うし……」

おじいさんの言葉がチャラすぎるので、その後のおじいさんの話をまとめるとこうでした。

おじいさんは、海の中のお屋敷（やしき）（たぶん竜宮城）に入っていき、そこにいたきれいな女の人（たぶん乙姫さま）にたくさんお礼をされます。

ごちそうがどんどん運ばれて、時間がたつのも忘れるくらい楽しかったそうです。

おじいさんが「そろそろ帰る」と言ったとき、おじいさんの中では三日くらいたっていたつもりでした。もっといてくださいと引き止められたのですが、おじいさんは帰ることにしました。

すると、お屋敷にいた女の人が、お持ち帰りくださいと渡してくれたの

が黒塗(くろぬ)りの木箱（たぶん玉手箱）でした。

「お、おう……」

と受け取って、お兄さん亀の背中に乗って海岸に戻ってきました。

（　１　）、おじいさんはあたりを見回すと、なんだか景色が違います。

お兄さん亀に

「ちょ、兄ちゃん。ここってはじめの場所とちがうっしょ」

と聞くと、お兄さん亀は、たしかに元いた場所だと言います。

仕方なく、お兄さん亀に別れを言って、あらためてあたりと見まわします。自分の記憶にある景色とはちょっと違うのです（　２　）、まったく違うというわけではない。

問１　（　１　）に入る言葉を選びましょう。

ア　なぜなら　イ　だから　ウ　ところが　エ　また

（　　）

問２　（　２　）に入る言葉を選びましょう。

ア　よ　イ　ね　ウ　と　エ　が

（　　）

26　白髪のおじいさん　その5

どうやら白髪のおじいさんが帰ってきたときには、この世界では二十年ほど①時がたっていたようです。

とても不思議なことですが、おじいさんにとっては三日しかたっていないように思えたのに、帰ってきたらとんでもない時間がたっていて、自分だけ時間の流れに取り残されたらしいのです。

「これってほら、なんちゃら効果って言ったっけ？」

おじいさんが小品川くんにたずねます。

「ウラシマ効果ですね。」

そう答えた小品川くんに、おじいさんは吹き出しながら言いました。

「ちょ、ウラシマとか、それ、おれの名字だし。なんで知ってるし。」

②小品川くんは、だんだん馬鹿にされたような気分になってきました。

まさか、本物の浦島太郎が目の前にいるとは思えません。

もしかしたら、これは何かのドッキリで、どこかでかくれて動画撮影している人がいるのではないかと、小品川くんはあたりをキョロキョロと見まわしました。

そもそも、このおじいさんは昔話の浦島太郎の話を知らないのでしょうか。

問１　――線部①を漢字二文字で言い換えるには、どれがいいでしょうか。

ア　経過　　イ　定価　　ウ　過去　　エ　経験

（　　）

問２　下線部②のように小品川くんが感じたのはなぜですか。

ア　目の前にいるおじいさんが、とてもチャラいから。

イ　目の前にいるおじいさんが、本物の浦島太郎だとは思えないから。

ウ　目の前にいるおじいさんが、本物の浦島太郎だと思ったから。

エ　目の前にいるおじいさんが、ヒップでホップだから。

（　　）

問３　「ウラシマ効果」について、文中の言葉を使って二十字以内で説明しましょう。

27　白髪のおじいさん　その6

ついに小品川くんは、おじいさんに聞きました。

「おじいさ……いや、太郎さん。浦島太郎という昔話は知っていますか？」

おじいさんは、小品川くんの顔をしばらくぽかんと眺(なが)めていましたが、

「昔話とかよく分かんね。つか、浦島太郎っておれの名前だし。」

と言い切りました。

小品川くんは、混乱で叫び出しそうになるのをぎりぎりこらえながら、①頭の中を整理します。

このおじいさんが言っていることに嘘はないような気がする。しかし、嘘じゃないとしたら、この人が本物の浦島太郎で、昔話でよく知られているあのお話を、自分は目の前で目撃していることになる。

あまりに非現実的で信じられないことですが、気を取り直して聞いてみました。

「では、太郎さんは、本当はもっと若者で、あの黒い箱を……」

「そう！黒い箱を開けると白い煙が出てきて、気が付いたらこれっしょ。ああ、やっぱ②あの女まじむかつくわ。」

「もしかして、『この箱は開けないでください』とか言われてませんでしたか？」

「いやいや、そんなこと言われてないし。箱を渡されるときに『では、これを。』しか言われなかったし。」

ふむ、と小品川くんは考え込みました。

昔話の浦島太郎では、乙姫様が箱を渡すときに

『この箱を開けてはいけません』

と注意する場面がある。しかし、今目の前にいる浦島太郎は、特に何も言われていない。

小品川くんは、③そのことにちょっとした違和感を感じました。

「それじゃ、何が入っているのか分からずに開けちゃいますよね？」

「だべ？まじ最悪なんだけど。いじめられてる兄ちゃん助けてやったら、じじいになりましたって、おれ何も悪いことしてないし。」

たしかに、太郎さんは何も悪いことはしていません。

かと言って、小品川くんがおじいさんにしてあげられることが何かあればいいのですが、今のところ何も思いつきません。

「というか、帰る家もないよなあ。」

おじいさんが悲しそうに言います。空はすっかり夕暮れどきです。おなかもすいてきました。

「よければうちに泊まります？」

小品川くんは思い切って言ってみました。

問１　――線部①で、小品川くんが考えたことが書かれている部分を抜き出し、始めと終わりの五文字を書きましょう。

□□□□□　～　□□□□□

問２　――線部②「あの女」がおじいさんに言った言葉を文中から書き抜きましょう。

（　　）

問３　――線部③、小品川くんが感じた違和感について、後のヒントにある言葉を使って説明しましょう。

（ヒント）

昔話の浦島太郎　箱を開けないように

目の前にいる浦島太郎　特に何も

28　白髪のおじいさん　その7

おじいさんを家に泊めてあげたおかげで、小品川くんはいろいろなことをおじいさんから聞くことができました。

まず、竜宮城へ行く前のおじいさんは二十四歳だったこと。

今はそれからちょうど二十年経っていること。

自分の家がどのあたりにあったかは、すっかり忘れてしまっていること、などです。

小品川くんは、二つ目の違和感を抱(いだ)きました。

もともとが二十四歳で、それから二十年経っているのだとしたら、あの玉手箱の煙によって二十年分の年を取ったというのはおかしい。

（　1　）、太郎さんの見た目の年齢は、どう見ても六十過ぎに見えるからだ。

（　2　）、竜宮城で過ごした時間があの玉手箱に凝縮(ぎょうしゅく)されているのだとしたら、煙をあびた太郎さんは二十年分の年を取るはずである。だとしたら六十過ぎの太郎さんの見た目と①矛盾(むじゅん)する。（　3　）、玉手箱の煙は竜宮城で過ごした時間が凝縮(ぎょうしゅく)されているわけではない。

したがって、玉手箱の煙は、もっと別の何かの作用を持っており、その作用によって太郎さんが約四十年分の年をとってしまったに違いない。

そこまで考えた小品川くんは、おじいさんに相談をもちかけました。

「太郎さん。何とかもう一度竜宮城に行けませんかね？」
おじいさんは、最初は
「とんでもない。」
と怖がって反対していましたが、
「年を取る煙があるなら、若返りの煙もあるかもしれませんよ。」
という小品川くんの言葉を聞くと、
「それな！」
と言ってあっさり小品川くんの案を受け入れました。
竜宮城に行けば、小品川くんが感じている二つの違和感について、謎が解けるにちがいありません。このとき、小品川くんの心は、謎を解きたいという好奇心でいっぱいだったため、とても大切なことを見失っていました。

問１　（１）～（３）にあてはまる言葉を次のア～オから選びましょう。

ア　つまり　　イ　しかし　　ウ　なぜなら

エ　もし　　オ　そして

１（　　）　２（　　）　３（　　）

問２　――線部①「矛盾（むじゅん）」とは、「つじつまが合わない」という意味です。ここで小品川くんの考えている「矛盾」について説明した次の文の（　　）にあてはまる数を答えましょう。

もともと（　１　）歳である太郎さんが、（　２　）年分の年をとったのだとしたら、（　３　）歳になっているはずであり、（　４　）歳過ぎの見た目と合わない。

１（　　）　２（　　）　３（　　）　４（　　）

（ヒント）

六十　　四十四　　二十四　　二十